

菊池御案内

菊池案内鳥瞰図

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

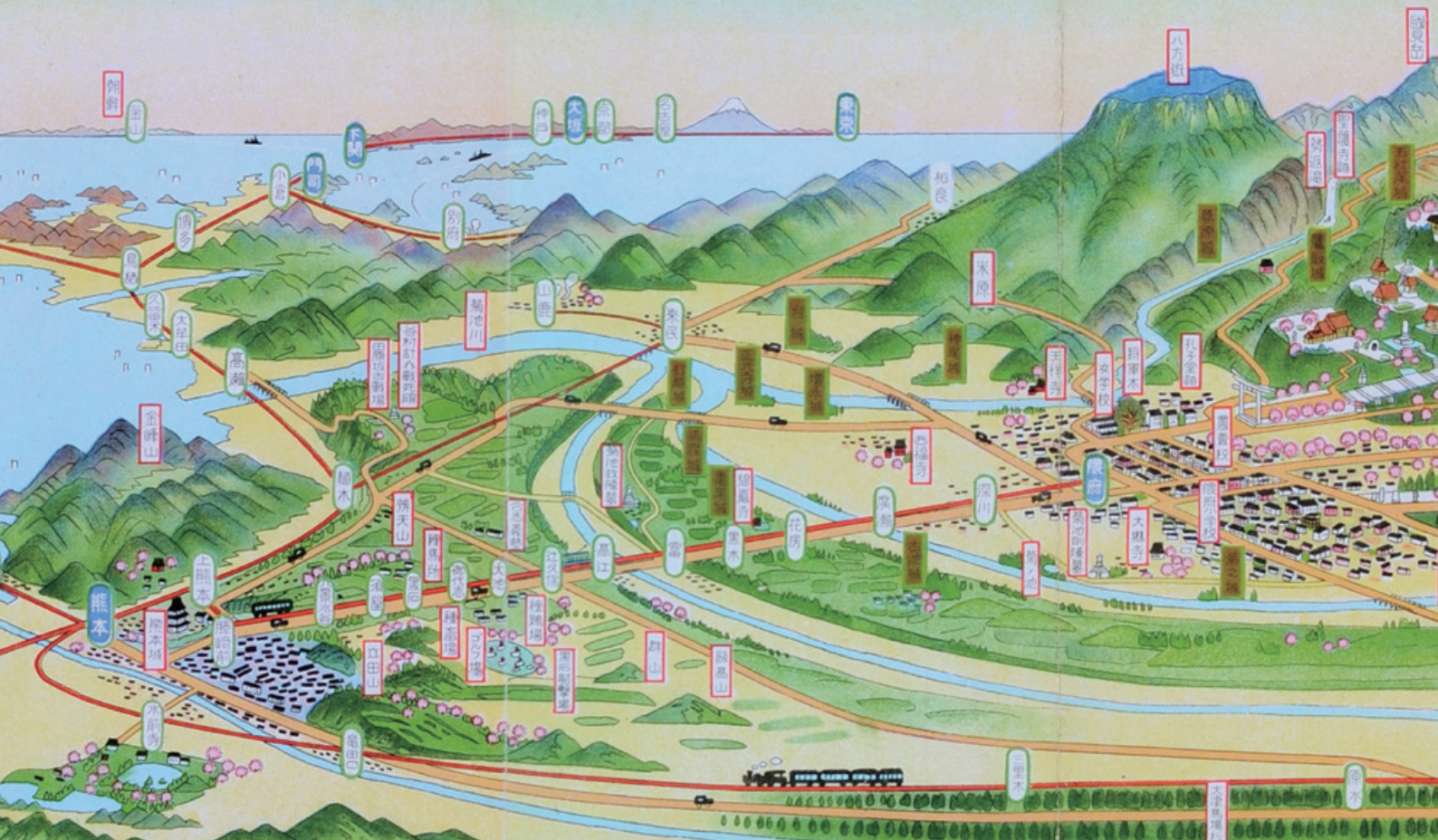
今春の「熊本地震」で熊本城をはじめとする大被害があつたが、熊本市交通局運営の路面電車、熊本市電（通称は市電、大正十三年開業）は本震から四日で全線再開、走り続ける姿に勇気づけられ、復興への大きな力になっている。

一方、本題の熊本市北部を走るローカル鉄道の熊本電気鉄道も同様である。前身は菊池軌道で明治四十二年設立（同四十四年開業）。池田（後の初代・上熊本）から藤崎宮前、高江、隈府町（現・菊池市）まで延伸し、本図（昭和六年作画）中央部に菊池神社境内の西麓（隈府）から上熊本まで赤線の路線が図示されている。

その後は電化と改軌が進み、大正十三年には菊池電気軌道に改称。さらに昭和十七年には、国策への協力と輸送力増強から菊池電気鉄道に社名を改称。

戦後は、復興の進む中で、昭和二十三年に現社名の熊本電気鉄道と

藤本一美
首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会評議員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版 2006年）、最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



【菊池御案内「菊池案内鳥瞰図」】
 (昭和6(1931)年秋)
 熊本県菊池郡北部教育会 発行
 名古屋市外犬山町日本ライン蘇江の観光社 印刷

熊本唯一の「民鉄」として 地域にしっかり根を張り走り続ける



熊本電気鉄道株式会社
 Kumamoto Dentetsu Co., Ltd.

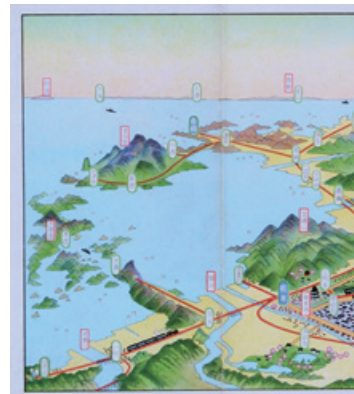
設立：明治42(1909)年8月15日
 本社：熊本中央区黒髪3丁目7番29号

熊本電気鉄道は、熊本市の北東部に位置する菊池市と熊本市を結ぶ交通手段として、明治42年に設立した熊本で唯一の民鉄。現在は熊本市と合志市を結ぶ上熊本―御代志間の菊池線(10.8km)と藤崎宮前―北熊本間の藤崎線(2.3km)、2路線を運行している。一部区間の廃止など厳しい状況下にもありながらも、「地域とともに、地域住民のために」を企業理念に、利便性の維持と向上に企業努力を重ね、平成21年には創立100周年を迎えた。

今年4月14日に発生した熊本地震では、16日までの断続的な強い地震で駅のホームや架線に損傷を受けたが、18日には日曜祝日ダイヤで藤崎宮前―御代志間の運転を再開。4月25日からは全線通常ダイヤで運行し、地域の足の確保に努めている。



©2010 熊本県くまモン # K22778



なる。大きな変化は、昭和二十五年に菊池方面への輸送時間の短縮のため、本図にはない熊本市街地の北を通過して北熊本に至る新線が開業。そのため上熊本―藤崎宮前(二代目)間は、昭和二十九年に熊本市電に譲渡された。昭和四十年代になると、自動車文明社会の進展によって乗降客や貨物取扱量が減少し、残念ながら昭和六十一年二月、御代志―菊池(旧・隈府)間が廃止となってしまった。現在、営業運転路線は短縮したものの、「市電」とタイプアップし、利便性の向上や地震の復興に努めている。

本図の巧みな立体絵図によって面影をたどってみたい。また、大胆な構図の右端に阿蘇カルデラを、左端に島原・雲仙・長崎を、遥か遠くに中国大連・上海、朝鮮半島やいつもの富士山もチョココンと配置して楽しい図となっている。

平成元年早春のこと、熊本を再訪し、「熊本城天守閣からの眺望図」(画文『続々展望の山旅』実業之日本社・平成七年)を描画した思い出の地である。三たび訪ね、市電やローカル鉄道、バスを利用し、菊池温泉まで足を延ばしてみたい心境になっている。益田啓一郎氏によると初三郎作品には「菊池史蹟図原画」(昭和二十一年)もあるということだ。